

言葉おしみ

先日、他校のバレーボール部の選手達が突然目の前に集まり、大きな声で「気をつけ!礼!ありがとうございます」と、私が携わる大会の運営に関し、感謝の気持ちを伝えに来てくれました。私はすかさず「どういたしまして」と選手らに勝る大きな声で返答をしました。すると、私の言葉に周りにいた方々が笑いだしたのでした。問うてみると、体育館の中で「ありがとうございます。」は飛び交うけれど、「どういたしまして。」の言葉を聞いたことがなかったというのです。

考えてみれば、言うべき言葉、言わなければならない言葉を発していないことが多いような気がします。廊下ですれ違い、「おはようございます」と声をかけても、何となく会釈をするだけの人がいいます。昨日は、電車の隣に立つ学生が下車しようと振り向くと彼のリュックが私の腕にぶつかるも、「すみません」の一言がない。「一言いうべきだよな」と思いながら彼の後姿を見つめる……。

3年C組の教室に入ると道德の教科書が開かれていました。題名は“言葉おしみ”です。この単元は、日常の挨拶や感謝、お詫びなどの言葉を省略してしまう場面、すなわち言葉を惜しんでしまう場面を通し、礼儀の意義やコミュニケーションの大切さを学ぶ内容です。生徒たちが机の周りで何やら動いています。困っている人を見かけた時にどのように声をかけるか。また、その声かけにどのように返答するのか、ロールプレイを行っていました。声をかけることができないグループがありました。また、声をかけられても、どのように返答してよいか困惑している人が多く、言葉を省略する言葉おしみというより言葉を失っていました。私もロールプレイに参加し、膠着した場面を揉んできました。雰囲気や



わらかくなったのか、その後、3パターンのロールプレイを行い、徐々に盛り上がっていきました。互いに一言あれば素敵な気分です。その後を過ごすことができます。見知らぬ人や学校生活でのさりげない言葉のやり取りが人間関係を円滑にし、相手への敬意や思いやりにつながるのです。

3年C組から、B組そしてA組と様子を見ながら、4階に上がると静けさが漏れてきました。そこは1年生の教室。そうです。5日(木)まで学年閉鎖なのです。スキー教室で圧倒的に魅せた笑顔が見られないのです。しかし、生徒がいらないはずの教室の窓が開いているではありませんか。実は生徒が登校しているのか、いいえ、6日からの生徒の登校に備えて、1年生の教員が、換気や掃除を行ったのです。教室環境への配慮は、出しおしみはしません。



“惜しむ(おしむ)”とは、本来、大切なものを失いたくないと思う気持ちを表す言葉です。この題材による“言葉おしみ”は、言葉を発することを躊躇するとか、そもそも声をかけるつもりがないというような、後ろ向きのイメージをもちます。本来の意味を受けるなら「あなたにかけるとき失いたくないほど大切な言葉。大切な言葉をかけてあげられない。」ということ。そのような意味で声に出さない人は何人にいるのでしょうか?失いたくないほど大切な言葉をさりげなく発してもその言葉は消えゆくことはありません。言葉は互いの心に残ります。むしろ、失うどころか大切な何かを与えてくれるかもしれません。

6日、久しぶりに、1年生の教室に笑顔がはじけます。やっと会えました。その姿を観て「教室に生徒がいるから学校なんだ。」と熱いものがこみ上げ、声を発することができずしてした。“言葉惜しみ”であります。

